

子どもと健康

令和6年1月（第292号）
子どもの健康を考える会

明けましておめでとうございます。お正月をご家族お揃いで楽しくお迎えになられたことと思います。今年も子どもたちが健康に過ごせることを願い、「子どもの健康を考える会」から発信していきます。今回は、「子どものワクチンについて」 河渡こどもクリニック 院長 村木敬行先生よりご指導頂きました。



子どものワクチンについて

ワクチンで予防できる病気を VPD といいます。私たちの身の回りには、細菌やウイルスによって引き起こされるさまざまな感染症があります。これらを防ぐためにもっとも有効な手段が“ワクチン”です。ワクチンは、感染症の原因となるウイルスや細菌を加工して、病原性（毒性）を弱めたりなくしたりして、体にとって安全な状態にしたものです。

ワクチンを接種する大切な目的として、次の3つをあげることができます。

- 1 自分がかからないために
- 2 もしかかっても症状が軽くてすむために
- 3 まわりの人につさないために

1と2はワクチン接種を受ける本人のための目的で「個人防衛」と呼ばれる理由です。3は自分のまわりの人たちを守るという目的になります。いわゆる「社会防衛」と呼ばれる一面ですが、兄弟、家族、お友達など大切な人たちを守るということです。

コロナウイルス感染症は2023年11月現在、重症度はずいぶん下がってきましたが、高齢者の重症化率や死亡率は、健康な若い方に比べて、いまだ高い率で推移しています。皆様がワクチン接種を受けることは、高齢な方々の感染予防や健康維持につながります。

子どもが VPD（ワクチンで防げる病気）にかかると、病院や診療所に通院や場合により入院することになり、保育所や幼稚園、学校などを休むことになります。また、かかった本人だけでなく、保護者や家族の方々の日常生活にも、さまざまな影響が出ます。肉体的/精神的/経済的にも大きな負担がかかります。

ワクチンは接種後の副反応が怖いと思っている人がみえます。実際には、接種した場所が赤く腫れたり、熱が出る程度の軽い副反応がほとんどです。ワクチンを接種後に、脳炎を起こしたという話が報道されることがあります。でも、これが本当にワクチンのせいかという、ワクチン接種後に起こったというだけでは、断定できません。他に原因があって、それがたまたまワクチンを接種した時期に起こったかもしれないのです。たとえば、接種後にたまたまかぜをひいて熱を出した、というケースもよくあります。ワクチン接種後の重篤な健康被害は無いわけではありませんが、そのリスクは、接種が正しく行われている限り極めて低いと考えられ、安心して接種を受けていただきたいと思います。

万が一の健康被害に対しては補償する制度があります。定期接種後に重い副反応が起こった場合、それが「予防接種によって起こったものではない」と明確に否定されない限り、因果関係が認められたことになり、予防接種法による救済措置を受けることができます。

ワクチン接種を受ける場合は、できるだけ体調の良い時に、ワクチン接種に精通している医療機関で接種していただきたいと思います。

河渡こどもクリニック 村木敬行



岐阜市役所 子ども保育課

TEL：214-7825（ダイヤルイン）

FAX：262-1121

Eメール：hoiku@city.gifu.gifu.jp